

【財務分析概況説明】

資金収支計算書

令和2年度の資金収入は、「学生生徒等納付金収入」から「前年度繰越支払資金」までの合計が49億5,378万円となり、予算額を1億790万円超過する結果となりました。これは学生生徒等納付金収入において、前年度より多く計上できたこと等によります。

一方これに対する資金支出の総額は、「人件費支出」から「資金支出調整勘定」までの合計が27億6,244万円で、これを収入総額より差し引いた21億9,093万円が翌年度繰越支払資金となり、前年度末に比べ1億1,687万円支払資金が増加しました。

本年度は特に補助金収入額が予算額を下回った結果となりましたが、支出面では教育研究経費、管理経費、設備関係支出等において前年度より支出を抑えた予算編成を行い、その執行管理にも努力した結果支出を抑制し、収支状況を改善することができました。

内訳表により設置校ごとの収支を見てみると、学生数の減少に伴い短期大学が支出超過となっていますが、大学は収入超過の収支結果でした。また高等学校も支出超過となっておりますが、これは駐輪場用地の取得によるもので、その支出には学園の積立金(第2号基本金引当特定資産)を充当しております。

活動区分資金収支計算書

資金収支計算書をもとに、それぞれの活動区分ごとの収支を見てみると、教育活動による資金収支は5,774万円のプラス、施設整備等活動による資金収支は7,767万円のマイナス、教育活動と施設整備等活動の総額での資金収支は1,993万円のマイナスとなりました。また、その他の活動による資金収支は1億3,681万円のプラスとなり、収支差額の総額としては上記の資金収支計算書の通り、支払資金は対前年度で1億1,687万円の増額となっています。

事業活動収支計算書

事業活動収支計算書では、資金収支計算書の科目に加え、実際の資金の支出を伴わない数値上の支出額ですが、人件費に退職給与引当金が、教育研究経費及び管理経費に減価償却額等が加算されること、また、人件費比率も依然として高く、これらの影響で教育活動収支では2億4,607万円のマイナスとなりました。一方、教育活動外収支では5,597万円のプラス、教育活動と教育活動外収支を合わせた経常収支では1億9,009万円のマイナスとなりました。また、特別収支では9,100万円のプラスとなり、総合して当年度収支差額は、9,909万円のマイナスとなりましたが、予算額および前年度の収支差額よりは改善することができました。

内訳表の事業活動収入と事業活動支出により設置校ごとの収支を見てみると、短大、高等学校は支出超過、大学は収入超過となりました。学園全体としても支出超過額は昨年度よりも減少し、事業活動収支状況の改善を図ることができました。

貸借対照表

上記の資金収支及び事業活動収支の結果、令和2年度末における本学園の財産状況を示す貸借対照表では、資産の部の合計額は前年度に比べ2億9,143万円減少し、155億2千921万円となりました。これらは主に建物・施設設備など有形固定資産の除却や減価償却等による減少分が反映されています。

これに対して負債の部の合計額は、前年度に比べ1億9,234万円減少し9億865万円でした。これは、退職金の支払いに伴う未払金及び退職給与引当金の減額が主要因となります。また、ご覧いただいておりますの通り資金の借入は行われておらず無借金です。

純資産の部のうち、基本金については、第1号基本金が2,872万円を組み入れて、143億617万円となり、第2号基本金は高等学校における駐輪場用地の取得、及び大学・短大における警備システムの更新のため計5,450万円を取り崩し、26億9,148万円となり、第4号基本金については増減なしとなっています。また、翌年度繰越収支差額は前年度に比べ7,330万円増加し、25億7,910万円の支出超過となり純資産の部合計額は前年度から9,909万円減の146億2,055万円となりました。

財務比率表

上記の各計算書から算出した財務比率を分析してみると、負債比率が極めて低く、運用資産余裕比率や純資産構成比率が高いことが読み取れ、例年に引き続き全体としては健全な財政状態が維持されています。

しかしながら、本年度も法人全体での人件費比率の改善は見られたものの、単年度の収支では事業活動収支においてマイナスとなっています。私学事業団による定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分では、昨年度に引き続き「B0」区分に位置づけられており、これを「A3」区分以上に改善すべく、今後も新たな中期計画および経営改善計画に基づいて学園全体で学生募集を順調に進めるとともに補助金等外部資金の増額にも努め、さらに一層の経費節減努力等も引き続き行うことで、学園の持続性を維持するため、次年度以降の収支比率を好転していけるよう努力していく必要があります。